

とかす力 (八木重吉の詩を愛好する会会報)

事務局（連絡先）〒277-0014 千葉県柏市東 3-8-34 柏第一宣教バプテスト教会
***** 天利武人（教会牧師）電話 04-7164-9159
（会報編集、ホームページの連絡先）〒270-1406 千葉県白井市中 205 小林正継
***** Eメール kmat27aiko@gmail.com 携帯電話 09061674553

☆ 第 22 号

☆2021 年（令和 3 年）
4 月 26 日 発行

★ 今年の茶の花忌についての、生家と準備委員会の方針

八木重吉の詩を愛好する会の、会報編集をしている私（小林）が茶の花忌準備委員会の事務局もしていますので、今年の茶の花忌の方針についてお伝えしておきます。新型コロナウイルス感染が相変わらず収束に向かっていない状況にあり、今年こそは開催したいと思っている茶の花忌の催しですが、茶の花忌準備委員会の委員たちも集まれず、文面で連絡をとっている次第です。今年開催できる場合は、準備委員長の八木幹夫氏の挨拶と詩人としての講演を中心にプログラムを考えています。また中止の場合も考え、何か愛好者の皆様には還元したいと思ひ、茶の花忌の概要歴史年譜の作成を 1 つの目標にしています。

1927 年（昭和 2 年）10 月 26 日の八木重吉の死去以来今年は 94 年になります。1984 年（昭和 59 年）の八木重吉記念館開館以来 37 年になります。これだけ年月が経つと 10 月 26 日の催しの詳細な内容はもちろんのこと、プログラムの記録さえ残っていない部分があります。事務局でできるだけ情報を集めてはいますが、空白の部分もあります。そこで皆さんに、今から 10 年前より以前の茶の花忌に参加されてプログラムの記録等を保存してある方は、その情報を提供して欲しいのです。また記念館の開館以前の情報となると更に少なくなります。命日に関する資料を研究したりして把握している方がいましたら、情報提供をお願いします。コロナでまだまだ先が不透明な日々ですが、願わくは、茶の花忌が開催でき、皆様に良い資料を提供したいと思います。

★ 新発見—1915（大正 4）年の『八木重吉英文日記』の反響

この日記が届いた方々から、いろいろな便りをいただきましたが、鎌倉師範学校との関係で、この本が出て良かったという感想を中心に皆さんに紹介しておきます。紙面の都合上、一部になることをご了解ください。

★ 町田市成瀬が丘在住の手塚直樹さんの便りから

「私は昭和 20 年代終わりから 30 年代初めにかけて、鎌倉師範の男子部が前身である、横浜国立大学教育学部の学生として、鎌倉で 4 年余を過ごしました。自宅は新宿区柳町（昭和 22 年まで牛込区柳町）でした。鎌倉まで通うのが大変でしたので、鎌倉の学生寮を利用しました。戦後 10 年とは過ぎていない鎌倉の校舎も学生寮（寄宿舎）も昔のままで、多分八木重吉が学んだ同じ校舎で学び、同じ寄宿舎で生活したのだと思います。したがって、八木重吉より 35 年～40 年ほどの後輩である私は、先輩としての重吉を身近に感じる事が出来、『八木重吉英文日記』に書かれている彼の日々の生活、重吉の実像などをわが身に重ねて見る事が出来、いっそうの共感と感動を覚えました。

「重吉が通った鎌倉師範学校」（日記の 185 ページ）の写真。校舎の正面の入り口は全くそのままで、私もこの正面玄関を歩いて各教室に行ったものです。寄宿舎はこの建物の左奥にありました。背後に見える小高い森は隣接する「鶴岡八幡宮」の森です。私が鎌倉にいた頃は、冬など午後 5 時過ぎには鎌倉の町は人通りがなくなり、鶴岡八幡宮の境内は真っ暗です。外出し学生寮に帰る女子学生は痴漢に襲われないかと戦々恐々でした。また学生寮はかなり自由で特に制約もなく、男子の部屋、女子の部屋が同じ建物内にありました。規律を守りながらも交流はごく自然に自由に行われていました・・・」

★ 茅ヶ崎市松風台在住の亀井瑞世さんの便りから

「私の父（昭和 20 年に死去）は滋賀師範卒、母（20 年前に死去）は京都師範卒、二人とも小学校の教師でした。父の遺品に剣道の武具一式がありました。父の師範学校生活を知るようでとても嬉しいです。父は重吉さんの 10 年後の生まれです・・・私の恩師である青木照明先生に『英文日記』を差し上げたところ以下のような便りをいただきました。青木先生は茅ヶ崎の教育界のレジェンドと言われる方で、鎌倉附属小学校の校長、茅ヶ崎市内の校長、教育長を歴任され、現在 92 歳の方です。

〈八木重吉の『英文日記』の 3 ページの写真を見た時はビックリしてしまいました。私の鎌倉師範学校時代の写真にあまりにも似ていました。日記には溢れるほど当時の鎌師の様子が書かれていて後輩として私はたまらな

く懐かしくなっていました。なかでも 185 ページの校舎の写真を見た時は、私が附属小学校に勤務していた時に消失してしまったものなので、もう、どう気持ちを整理していいかわからない状態になってしまいました。・・・」

☆横浜市戸塚区の長澤弘明さんの問い合わせから

『英文日記』に出て来る「小雀クラブ」という野球チームの名前を見て、長澤さんから問い合わせがありました。長澤さんは小雀小学校に勤務していたそうです。『英文日記』には、鎌倉師範の野球チームが「小雀クラブ」や「花王」と対抗試合をしている記録があります。重吉が在籍していた頃から社会人野球チームが結成され、鎌倉師範のチームと対抗試合を行っていたようで、やがて昭和になって横浜金港クラブという強いチームが横浜に生まれます。中学（戦後の高校）野球熱と相俟って、横浜が野球の盛んな一地域になっていった歴史が読み解けたという感じです。長澤さんの問い合わせに感謝です。

☆その他

『英文日記』についての感想を多くの方々より頂きました。ありがとうございます。この本が八木重吉のみならず歴史的にも貴重な資料として役立つことを改めて認識しました。皆さんが是非にも送ってほしいと思われる公的な機関（図書館等）がありましたら、小林までご連絡ください。小林から送りたいと思います。

★昨年死去された伊藤かつ子さんについて

伊藤かつ子さんの娘である伊藤由利子さんも愛好者の一人であり、親子で熱心に茶の花忌には参加されていました。その伊藤由利子さんから、伊藤かつ子さんの思い出が届きましたので、紹介します。

伊藤由利子

はじめて母が八木重吉のファンだと気づいたのは小学生の頃でした。普段は雑誌など買うことの無かった母が『詩とメルヘン』その創刊 2 号を突然買ってきた時でした。そこには重吉の作品が掲載されておりましたが、母は購入の理由も、どの頁が好きだと推すようなことも一度もありませんでした。けれども母はその後も定期購読を続け、これは好きな作家が載っているのだと察することとなりました。

当時の自分は既に活字中毒になっており、両親の本棚も時折覗いておりました。その中に八木重吉も何冊か並んでおりました。雑誌にどの作品が掲載されていたのか残念ながら記憶に残っておりません。ですが重吉を選出したイラストレーター氏の「八木重吉の優しさと山羊の優しさが似ている」そんなコメントが記憶に残っております。

若い頃の母は、晩年の姿からは思いもしないのですが、実はとても臆病で一人で出かけるということが全く出来ない人でした。ある年、やっと勇気を出して交通手段を探し出し重吉の生家を訪れたのは、登美子さんの訃報を目にしたからでした。愛する重吉の詩を守ってくれた人にひと目でいいから会いたかったと語っておりました。母は重吉のお墓をはじめてみたときの印象を、とても重吉らしくて嬉しかった、思っていた通りの美しいお墓だと語っておりました。その年にはじめて母一人で茶の花忌に参列、翌年から母の希望で私も参加するようになりました。その後は母が欠席しても私が参列するという木乃伊取りが木乃伊になり、いつの間にか常連となり、皆さまに会えるのが楽しみになりました。本当に優しく接してくださる主催者様や小林様、皆さまのおかげです。

母は 7 年程前から大病を患い、父を看送ったあとすぐに、新たな病が見つかり余命を宣告される身となりました。脚も患いあまり長くは歩けなくなっておりました。

その病と病の間のほんの隙間の落ち着いていた頃に、以前から母が行きたいと望んでいた茅ヶ崎の南湖院・サナトリウムが一般公開されていると知り、この距離ならば大丈夫だろうと母に小旅行を提案しました。五月の穏やかな午后に母と二人、人影のない静かな園内のベンチでくつろぎ、しばし重吉談義を楽しむことが出来ました。帰りに懐かしい茅ヶ崎美術館内の重吉の石碑をみて、茶の花忌に参加できるようになって良かったねと、幸せをかみしめた一日となりました。それが二人最後の遠足となりました。

令和 2 年 11 月 19 日、母は逝去いたしました。83 歳。今日明日とほんの数日の余命を受けてから 1 年以上もがんばってくれた母でした。コロナ禍ではありましたが多くの皆さまに見送っていただき幸せな生涯でした。茶の花忌に通い始めて約 20 年、会の皆さま本当にありがとうございました。自身と同じ重吉のファンに出会えることを、出会えたことを本当に喜んでおりました。ありがとうございました。

最後に母の女学生からの趣味のひとつ、短歌を添えて結びとさせていただきます。

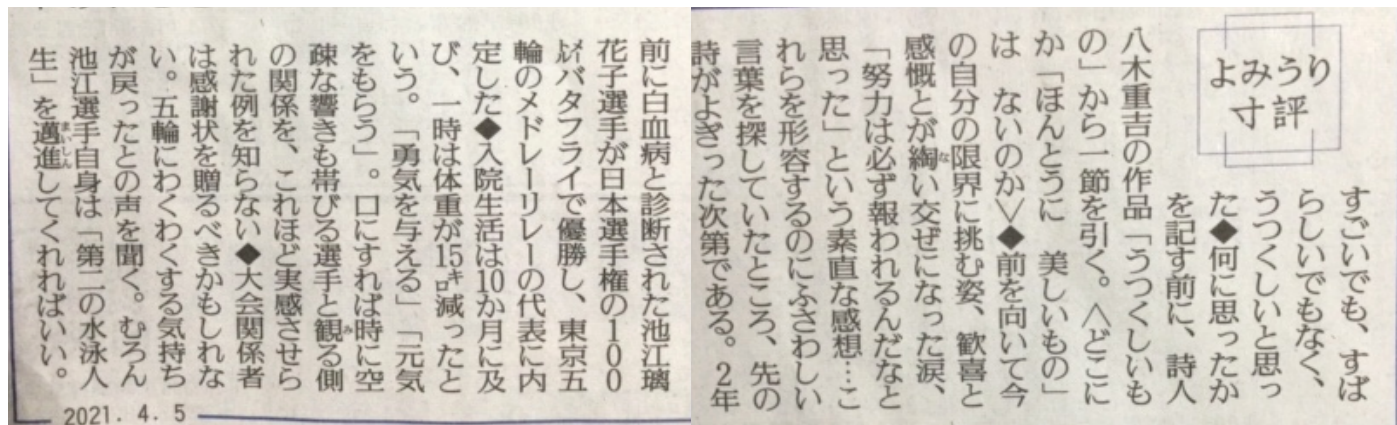
○重吉のゆかりの人のついに絶ゆ 満月を背に通夜より帰る

- 二十四時を点滴棒につながれてと夢の中でまどろむ
- このままに醒めぬ眠りを想うとき悔いなし我の八十二年

★愛好者の方々よりの便り紹介

このところ各地からいろいろな情報が届いていますので、いくつか紹介します。

☆今野実加枝さんより（北九州市在住）4月5日の読売新聞夕刊の記事



☆十松弘樹さんから YO-EN（ヨーエン）さんの案内

YO-EN 例会 黄昏に恋して ②



2DAYS

photo by Masami Gen Iwafune

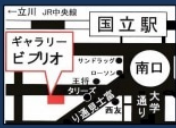
MC 2,500 円 (要予約: 限定 15 席)

5 月 22 日(土) 17 時～(開場 16 時 30 分)

5 月 23 日(日) 16 時～(開場 15 時 30 分)

ギャラリービブリオ

国立市中 1-10-38
電話 042-511-4368



国立市で「ギャラリービブリオ」という展示・イベント施設の運営をしている十松弘樹(とまつひろき)さんから、YO-EN(ヨーエン)さんという大阪在住の女性シンガーソングライターの紹介が来ました。大阪を拠点にライブハウスでの演奏、インターネットの動画配信サイト「YOUTUBE」での作品発表などを中心に地道に活動しています。コロナ禍で小休止を余儀なくされていますが東京でも定期的に演奏活動をしています。その東京での活動のサポートをギャラリービブリオで行っているとのことで、次のように言っています。

「YO-EN は八木重吉さんの詩を深く愛し心酔している者です。近年は多くの人に重吉さんの詩の素晴らしさを知ってもらいたい、と重吉さんの詩に曲をつけて自ら歌うという研鑽をしています。ゆっくりとした活動で現在、9 篇の詩についての曲を試作し編曲を進めています。YO-EN はまだ世に出てはいませんが稀有な歌唱力と卓抜した表現力で支持が広がりつつある人です。大阪在住で介護職として働きながら音楽活動を続けています。昨年も三回上京して数か所で演奏活動をしています。」2016 年より回を重ねてきた「昭和歌謡スペシャル」シリーズを昨年より「YO-EN 例会 黄昏に恋して」に改題しましたが、今年は、5 月 22 日(土) 5 月 23 日(日)に行います。(要予約: 限定 15 席 ← 時節がら適切な物理的距離を保つため平時の半分です)。」

コロナ禍で外出が難しいと思います。十松さんは、YOUTUBE で「YO-EN」で検索しいただいて、視聴してくださるとうれしいと言っておられます。ギターの響きをバックに〈哀しみ〉がよく表現されています。

☆吉澤英治さんからの便り

長野県佐久市に住み、佐久こまば学園に勤務、現在ねば塾に勤務し、長年知恵遅れの子供たちと生活してきた吉澤英治さんは、こころにふれる詩を愛する中で八木重吉の詩を愛し、吉野登美子さんとも交流を持ってきた方

であり、『かつぱのたび』という随想を出し、また「しんゆう」という便りを発行してきました。その「しんゆう」の中から、昭和 59 年に吉野登美子夫人を訪問した時に作られた詩を紹介しておきます。

なつかしい写真／吉野様にだっこされ／ほほえむ啓子／すました顔の健／お父さんとお母さんはね／まだ結婚する前／新潟の直江津の海を見ながら／八木重吉さんの詩集を／夢中で読んだんだ／日本海の波しぶきが／心の中で高鳴り／言葉のしぶきが／お父さんとお母さんの心を／一つにつないでくれたんだ／結婚して 4 年目だった／鎌倉市小町に／吉野登美子様をお訪ねしたのは／前日、江の島海岸で波と遊び／初めてお会いする／おまえ達は／吉野様のお部屋で元気に／飛び跳ね／吉野様にだっこされ／何て幸せだろう／愚かな歩みしかできない／父さんと母さんだけ／出会いの尊さを／おまえ達の心のなかに／残しておくからね／直人よ／おまえも／吉野様にだっこされたいか／うんうん／早く吉野様にお元気になって頂き／みんなでおたずねしよう／みんなで「おばあちゃん」の／健康をお祈りしような

★塩澤栄美さんよりたくさんの資料をいただく

相模原市に住む芸術家（ご主人も芸術家）で、八木重吉に関する人々にも関心を寄せられ、八木重吉が修学旅行で関東に行った際、星野富弘さんの故郷である群馬県みどり市神戸を通っていることを知って、銅山の有った足尾から江戸まで銅を運んだ赤胴（あかがね）街道の観光地図、また修学旅行で歩いた妙義山、榛名山の登山コースの観光地図を送って下さいました。さらに重吉が短詩表現で影響を受けたと言われる詩人山村暮鳥の研究活動団体「暮町会」の定期発行雑誌を送って下さいました。塩澤さんは、文化や芸術関係の情報を豊富に持っている方で、折にふれ八木重吉及び関連する人々についての情報も教えて下さり、感謝しています。

★河村梢さんからブックレット発行の便り



昨秋『六甲のふもと 百年の詩人 -八木重吉の詩 神戸篇-』を作った河村さん（「とかす力」21号で紹介）が、今度は姉妹編として『赤ちゃん と 百年の詩人-八木重吉の詩 神戸・育児篇』の本（ブックレット）を作りました。河村さんは、神戸に住み、1歳の娘を育てています。百年前の神戸で、同じように1歳の娘を育てていた八木重吉を思い、重吉の詩に、自分を重ねていると言います。数ある子供の詩の中から22の詩を選び、成長がわかるように、詩（初稿）の作られた順に並べ、欄外に少しのコメントを添えています。巻末には重吉の御影での足跡について、新資料を加えてまとめています。購入を希望される方は、神戸市御影の南天荘画廊（078-851-6729、送料は相談）あるいはオンライン注文は、1003 オンラインショップ（<https://1003books.stores.jp> 送料 300 円）へとのことです。ブックレットの頒布価格は 550 円です。

★ あなたの「八木重吉との出会いとその詩の魅力」原稿、継続募集中

（募集） 題：「八木重吉との出会いとその詩の魅力」（この内容に沿うなら別のタイトルでも OK です。）

字数：2000 字程度（原稿用紙 5 枚程度、パソコンのワード歓迎）

締切：なし（随時お送りください）

送り先：メール（kmat27aiko@gmail.com へ）か

郵送で 〒270-1406 千葉県 白井市 中 2 0 5 小林正継 へ

「八木重吉との出会いとその詩の魅力」は、愛好者の皆様が著者になる本として 1 冊にまとめたいと思っています。ぜひ原稿を書いて下さい。データとしてまとめてある方は、すぐにでも送って下さい。

★八木重吉の詩を愛好する会ホームページ案内

ホームページアドレス <http://www.yagijuaiko.com/> （作成途中の部分があることをご了解下さい）

E メールアドレス kmat27aiko@gmail.com （管理者小林正継）

◆私を初め高齢者の多い愛好会の仲間ですが、このところ若い方々からの便りや、元気な研究や活動の様子が伝えられ、喜んでいきます。コロナ禍の中でも、できるだけ実りのある情報を提供したいと思っています。こころの詩人八木重吉を通して、今年も愛好する皆さんとつながっていたいと思います。元気でいてください。（小林）